

アマモ場造成に関する取組

南薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的・目標】

藻場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、魚介類の生息の場、産卵の場、餌場となっている。南さつま市の久志、坊泊の沿岸では、かつて広い範囲にアマモが繁殖していたが、近年、減少傾向にある。そこで、失われつつあるアマモ場に着目し、地域一体となって復活に向けた保全活動に取り組んだ。

【普及の内容・特徴】

本年度は、鹿児島県漁協（秋目、久志）、坊泊漁協、鹿児島水産高校、南さつま市、県南薩地域振興局をメンバーとし、事前打合せ、花枝採取、種子回収、水槽管理、播種等の作業を行った。

【成果・活用】

(1) 花枝採取（5月）

鹿児島市与次郎の長水路にて、久志・坊泊の漁業者ら（計15名）とともに花枝を含む草体を30～40kg刈り取った。刈り取った花枝は約100L容の角形容器2個に分け、乾燥しないようにビニールカバーをかぶせ約1時間かけて水産高校まで輸送した。輸送した花枝は、タマネギ袋20袋に詰め替え、高校内4トンFRP水槽で枯らすこととした。

(2) 種子の回収（8月）

タマネギ袋の中の枯れた花枝を取り除き、篩いを使って種子を回収した（約26万個）。回収した種子は、約1L容のガラス瓶に分容し日光が当たらないようアルミ箔で被い、高校内の5℃の冷蔵庫で約2ヶ月保管した。保管に当たっては2～4週間に1度、海水の交換を行い、保管中に瓶の中で浮いた種子は海水交換のタイミングで取り除いた。

(3) 種子の選別（10月）

成熟して発芽能力を持った種子は比重が大きくなることから、飽和食塩水を使って沈んだ種子だけを回収することとした（約12万個）。

(4) 播種（10～翌年2月）

①ポット法

ジフィーポット480個に海砂約60Lと培養土20Lを混ぜた土を入れ、そこに種子を1g（約85個）ずつ播き、4トンFRP水槽に流水下で約6ヶ月間育成した。生育の良かった240ポットを選定し、3月中旬に久志1箇所、坊泊1箇所に潜水で120個ずつ設置した。

②紙粘土法

紙粘土を250g/枚に切り分け、種子を800個ほどまぶし、練り込み直径10cm、厚さ1cm程度のせんべい状に仕立てた。久志では33枚作成し、漁港周辺3カ所に11枚ずつ岸壁から投入した。坊泊では30枚作成し、漁港周辺1カ所に潜水にて設置した。

(5) 追跡調査

次年度以降、素潜りや潜水にて追跡調査を実施していく予定。



図1 花枝採取（鹿児島市与次郎）



図2 採取した花枝



図3 水槽での保管（鹿児島水産高校）



図4 種子回収



図5 アマモポット作成



図6 6ヶ月育成後のポットの状況



図7 紙粘土作成



図8 紙粘土設置（坊泊漁港：覆砂前）